



「科博廣澤航空博物館」一般公開開始 ～同日オープンのテーマパーク「ユメノバ」内～ 報道内覧会のご案内

独立行政法人 国立科学博物館(館長 篠田謙一)は、一般財団法人 科博廣澤航空博物館(会長 廣澤 清)とともに令和 3 年 3 月に設立した科博廣澤航空博物館(茨城県筑西市)を、ザ・ヒロサワ・シティ内のテーマパーク「ユメノバ」において 2 月 11 日(日・祝)より一般公開します。

ここでは当館所有の YS-11 量産初号機のほかに、南極観測で使用したヘリコプター(シコルスキーS-58)や零式艦上戦闘機(ゼロ戦)等を含む重要な航空資料を令和 3 年から貸与していましたが、このたび展示公開することとなりました。

これに先立ち 2 月 1 日(木)10:00 から報道内覧会を実施します。

※ 科博廣澤航空博物館は、一般財団法人科博廣澤航空博物館が管理運営を行う博物館です。

《報道内覧会》

一般公開開始前に航空資料について研究者による解説を行います。

【スケジュール】

2024(令和 6 年)2 月 1 日(木)10:00 「ユメノバ」入口集合

10:10～10:30 解説

10:30～10:40 質疑応答

【場 所】

ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市) (<http://www.shimodate.jp>)

科博廣澤航空博物館内(※別添地図参照)

【注意事項】

・事前の参加登録は必須です。登録者のみ入場いただけます。

・別途、ザ・ヒロサワ・シティよりリリースされていますテーマパーク「ユメノバ」内覧会のお知らせにて、参加登録された方については、当方への登録は不要です。

内覧会への参加を希望される方は 1 月 31 日(水)17 時までに以下の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

独立行政法人 国立科学博物館 経営管理部

研究推進・管理課 研究活動広報担当: 稲葉 祐一、中山 瑠衣
〒305-005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

Tel: 029-853-8984 Fax: 029-853-8998

E-Mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

【参考】

○科博廣澤航空博物館内の様子



○主な重要航空資料

シコルスキー S-58 (HSS-1)



1959(昭和 34)年に南極に残されていたカラフト犬「タロ」「ジロ」を救出。1964(昭和 39)年から、海上保安庁で海難救助や海上公害監視、海上交通指導などに使用され、1973(昭和 48)年に国立科学博物館に移管。

電建号



戦後、日本での航空再開となった 1952(昭和 27)年に日本グライダー倶楽部によるグライダー公開飛行大会が行われ飛行した。日本電建(株)がスポンサーになって製作し「電建号」と命名された。

ストーク B



1976(昭和 51 年)年 12 月 31 日、海上自衛隊下総基地で飛行時間の世界記録(当時)を樹立した人力飛行機。

零式艦上戦闘機



2020(令和 2 年)年 7 月まで上野本館で展示。戦時中にラバウル(現・ニューギニア島の都市)で破損した戦闘用(1人乗り)の 2 機を再利用して偵察用(複座)に改装されたもの。

YS-11



我が国航空機製造事業の期待を一身に受けた量産初号機(製造番号 2003)。
機体登録番号は JA8610 で、YS-11 全機中一番若い番号を 与えられている。

※重要航空遺産・・・日本航空協会が、歴史的文化的に価値の高い航空遺産を「重要航空遺産」として認定し、その意義を広く社会に知らしめるとともに、後世に遺していくため「重要航空遺産認定制度」を 2007(平成 19)年に設立した。2008(平成 20)年に、国立科学博物館が所有する「YS-11 輸送機量産初号機」および埼玉県が所有する「九一式戦闘機」を初の「重要航空遺産」として認定し、現在まで 8 件が登録されている。

